

平成29年度 地域でつながる家庭教育応援事業

地域家庭教育推進県北ブロック会議

(第2回)

日時：平成30年1月16日(火) 14:00~16:00

場所：杉妻会館会議室「百合」

「平成29年度地域でつながる家庭教育応援事業の取組について」

座長 福島大学人間発達文化学類准教授 原野 明子 氏

今年度推進してきた「地域でつながる家庭教育応援事業」の取組を振り返り、成果と課題を確認しました。また、次年度のテーマの方向性を示すために、「家庭教育をより一層推進していくためにどのようなことが必要になるか」という視点で意見交換を行いました。

1 地域でつながる家庭教育応援事業の成果と課題について < ○成果、△課題 >

(1) 親子の学び応援講座

- ブロック会議で話し合った内容を受けて、域内4つの地区で家庭教育応援講座を実施することができた。単Pではなく、2校以上の連合PTAで開催したことで、より多くの保護者の方々に「親の学び」を啓発することができた。また、実施した4つの講座の様子をホームページに掲載し、情報を広めることができた。
- 4つの講座で、それぞれの講師の方々から、専門的な見地からの講話や提言があった。子どもたちの健全な育成のために親自身がすべきことや、様々な社会問題に対する最新情報を学ぶ機会となった。参加された親自身も初めて知ることが多くあり、子どもたちのために親としてどう関わればよいかを改めて考えることができた。
- 各地区の講座に、ブロック会議構成員の方々にも参加していただいた。それにより、ブロック会議との連携が図られ、地域でつながる家庭教育応援事業の推進につながっている。
- △ 各地区で実施したアンケートやブロック会議での協議等を通して、今の時代に求められる家庭教育の課題を洗い出し、親子の学び応援講座のテーマとして設定していくようにする。
- △ 研修会に積極的に参加する親と、そうでない親との二極化が見られる。そのような親に対して地域でどんな支援が可能なのかを併せて考えていけるとよい。

(2) フォローアップ研修

- 2つの講演を通して、メディアに対する望ましい取り組み方や子どもの良さの伸ばし方について、認識を新たにすることができた。
- 幼・小・中の保護者や教職員、家庭教育支援に関わる方、社会教育行政関係者、家庭教育応援企業の方などが一同に介し、それぞれの立場から意見交換を行うことができた。自分とは違う視点からの話を聞くことで、子どもたちのために家庭や社会でできることをより深く考えることができた。



○ 様々な立場の人が集まり、講演を聞いたりグループ協議を行ったりしたことで、社会全体で子どもたちを育てていくことの重要性を改めて認識することができた。

△ テーマや参加対象を焦点化して、ひとつのテーマでより深く研修できるようにするために、選択型の研修にするなどの工夫が必要である。

△ 参加者のニーズを踏まえ、講演の時間配分やグループ協議の議題設定などを再度検討し、より充実した研修になるように改善を図っていく。



(3) 家庭教育応援企業推進活動

○ 事業の趣旨を理解していただく企業が増えてきている。報告書からも、各企業で家庭教育応援活動を推進している様子が伝わってくる。フォローアップ研修に家庭教育応援企業からの参加をいただくなど、各企業で家庭教育への意識が高まってきている。

○ 初の取組として、企業に出向き、「朝食摂取の必要性」をテーマとした企業研修を実施することができた。企業内で研修を実施することで、PTAや学校での研修会に参加しにくい従業員の方々も参加することが可能になり、望ましい食習慣についての啓発を行うことができた。

○ 県警、消費生活センター、地方振興局、保健福祉事務所等、関係機関との連携を進めることができた。それにより、多方面からの情報提供が可能になり、家庭教育応援企業活動の推進につながっている。

△ 登録申込をしていただくだけでなく、企業からの要請を聞き、情報を提供するなどの、その後のフォローアップを充実させたい。

【参加者の意見】

- ・ 親子の学び応援講座は、地区内の学校と保護者が一同に介して研修を行うことができた。行政と連携して実施したことで、様々なメリットがあった。親の学びを推進していく上で、大変良い企画であると感じている。
- ・ 今年度開催された各地区での講座や研修は、様々な立場の人が参加することができたので素晴らしいと感じる。しかし、メディア関係の講座は他の場所でも数多く実施されている内容であり、目新しさはあまり感じられなかったと思う。現在、スマホやSNSなどの情報機器が生活に密着している現状を考えると、それらを使用させないというだけでは、時代の流れに逆行している感がある。メディアコントロールは喫緊の課題であるので、安全に節度をもって活用していくための方策を学ぶ研修は継続していきたい。また、福島地区で行われた自分自身の生き方や考え方を振り返るような講座は、家庭教育研修の視点として、良かったと思う。
- ・ 川俣町での講座では、テレビなどの画面を長時間見ることが、体にいかに影響を及ぼすかについての講演であった。初めて知ることが多くなり、とても驚いている。医学的な観点から、メディアが体に与える影響について、具体的に学ぶことができた。講演内容を踏まえ、実際の生活の中で、どう関わっていくかが大切だと感じる。
- ・ メディアコントロールが難しい状況にあると感じる。インターネットやSNSなど、メディアに関する様々なことが急速に発達しているので、それに追いつけない現状がある。顔と顔を付き合わせられるような人間関係、アナログ的な人間関係を築かせていきたいと思う。
- ・ メディアとのつきあい方について学んだことを、親子で話し合い、情報を共有する時間を確保できるようになるとよい。

【座長からの情報提供】

- ・地域でつながる家庭教育応援ということに関連して、今年度から設置が義務づけられた「子育て世代包括支援センター」について少し紹介したい。
- ・子育て世代包括支援センターでは、主な業務として、妊娠・出産・子育てに関わる様々な相談支援を行う。これまでは、そのような相談支援は主に保健師が担っていたが、行政全体や医療機関、児童福祉施設、学校など様々な機関が連携して子育て支援を行うことができるようになった。このことにより、妊娠期から様々な相談に応じたり、必要なサービスを紹介したりと、切れ目のない支援を行うことが可能になるとともに、関係機関が連携して支援を進めるための個人的な情報を共有できるようになってきている。このように、各所がつながって家庭教育を応援するという運びになってきている。

2 グループ協議

今年度の成果と課題を踏まえ、家庭教育を推進していくために、今後どのようなことが求められるかを話し合い、次年度のテーマを協議しました。グループごとに活発な意見交換がなされ、家庭教育をより一層推進していくための方策を共有しました。

○ 各グループから出された意見

【家庭教育を推進していくために今後求められること】

- ・ 研修会への参加者を増やすため、研修内容の工夫や充実
- ・ 研修で学んだことをどう生かすかという意識
- ・ 家庭内で親子の会話をもつこと
- ・ 学校の先生との信頼関係作り
- ・ 家庭教育に関心が低い親へのアプローチ方法
- ・ 体験活動の推進
- ・ 学校、家庭、地域の連携と地域の教育力の再生
- ・ 子育てに不安を抱える親への多面的な支援
- ・ 地域を巻き込むPTAのあり方



【次年度のテーマ(例)の提案】

- ・ 医学的に見たメディアが心身に及ぼす影響
- ・ 自撮りアップ等のSNSの危険性と対処法
- ・ アナログ的な人間関係を構築する方法
- ・ 発達障害への理解とその向き合い方
- ・ 家庭読書の推進
- ・ 乳幼児期へのアプローチ
- ・ 地域とのつながりを目的とした体験活動
- ・ 子どもたちが自己肯定感や将来の希望を味わえる内容



3 成果と課題 < ○成果、△課題 >

- 学校、PTA、行政、企業、地域などそれぞれの立場から、地域でつながる家庭教育応援事業に関しての活発な意見交換がなされた。それにより、今年度の取組状況や成果と課題を多面的に評価・検証することができた。
- 家庭教育をより一層推進していくために必要なことを話し合ったことで、次年度のブロック会議の方向性について参加者全員で考えを深めることができた。
- △ 子育てに不安を抱えている親や子育てになかなか手が回らない親に対して、地域全体で関わっていきけるような方策をブロック会議で情報提供していくようにする。
- △ 各地区で実施したアンケートやブロック会議での協議等を通して、今の時代に求められる家庭教育の課題を洗い出し、より多くの保護者の学びにつなげていくことが求められる。